

<文化財の種類 天然記念物>

名 称	しんだちじんじゃ 信達神社のオガタマノキ
員 数	1 本
所在地	泉南市信達金熊寺 795 番地
所有者	宗教法人 信達神社 (宮司 山田哲司)
樹高等	樹高 18m 幹周 2.95m 枝張り 東西約 18m 南北 14m
説 明	<p>○信達神社について</p> <p>信達神社は、泉南市の南東部、J R 阪和線<small>いずみすながわ</small>和泉砂川駅の南南東約 2.5km、和泉山脈<small>よつし</small>の四石山（標高 385m）北側に広がる山丘の末端部近くに立地している。</p> <p>信達は泉南市の北部を流れる<small>しんげがわ</small>新家川から阪南市との市境までの地域をさす地名で、古代では日根郡 4 郷のうち呼喚郷<small>おのごう</small>にあり、平安時代の 11 世紀後半頃から信達庄、信達宿などの名で公卿の日記や紀行文に記されるようになる。現在も信達を冠する地名は信達市場など 9 町を数える。</p> <p>信達神社は信達地区の総鎮守として今も篤い信仰を集めているが、江戸時代までは<small>きんゆうじ</small>金熊寺の鎮守社で、一乗山金熊寺権現または金熊寺権現宮と呼ばれていた。明治維新に金熊寺から離れ、信達神社と称するようになった。本殿前にあるナギの木が府指定天然記念物（第 76 号）である。</p> <p>○オガタマノキについて</p> <p>オガタマノキはモクレン目モクレン科オガタマノキ属に属する。樹高 20m に達するものもある高木で、日本に自生しているモクレン科の樹木の中では唯一の常緑樹である。房総半島以西の本州南部と、四国、九州、沖縄、台湾、フィリピンなどの暖地に自生している。日本では神社によく植栽されるため、逸出<small>いっしゅつ</small>し野生化したものか本来の自生か、よく分からないものも多い。葉は厚く光沢があり、長楕円の倒卵形で、長さは 5 cm から 15 cm。縁が僅かに波打つ。樹皮は緑灰色を発する。2 月から 3 月頃に直径 3 cm 前後の白い花を咲かせる。花被片は 12 枚である。10 月頃に神楽鈴のような形状の実をつける。</p> <p>オガタマノキは「招霊木」や「小賀玉木」等と記され、サカキ、ヒサカキとともに玉櫛として神前に供えられるが、神霊を招き寄せるために用いられたことから「招き霊の木（おきたまのき）」が転訛してオガタマノキと呼ばれるようになったとも言われる。</p> <p>信達神社のオガタマノキは参道<small>わりはいでん</small>の中段、割拝殿が建つ広場の東側にある。樹高約 18m、幹周（地上 1.3m）は 2.95m、地表から僅かに南に傾いて樹立し、高さ 5 m 付近で 4 本の支幹に分かれて四方に大きく枝葉を広げている。枝張りは東西 18m、南北は 14m を測る。本樹は信達神社の森と呼ばれる鬱蒼とした社叢林内に生育しており、主幹に日差しが届きにくく湿潤なことからコケが密生している。</p> <p>オガタマノキは府内の多くの寺社で植栽されているが、樹高 18m、幹周 3 m 近くに達するものは他に例がない。本樹も植栽と考えられるが、神社境内にあって大切に管理されており、今後も成長が見込まれる。大阪府を代表するオガタマノキとして天然記念物指定に相応しい大樹である。</p> <p>註 招く ヲク（ヲグとも） 招き寄せる。おびき寄せる。（広辞苑）</p>